

場所 広島県山県郡北広島町

面積 11.6618ha

活動目的 荒廃した里山の整備保全活動及び整備した里山を活用した環境教育、自然体験活動の場の提供を通して、生物多様性の価値について普及啓発するとともに、環境に配慮した暮らしが実践できる人づくりに寄与することを目的とする。



サイト概要 本サイトは西中国山地の東に位置する降雪地帯で、標高375mの万代池という約2haのため池とその周辺の約9haの里山で、クリやコナラを中心とした雑木林、アカマツ林、スギ・ヒノキの人工林からなり、ビオトープも整備されている。その環境を活かして、自然体験、環境教育、人材育成の場として年間3,000人以上の来場者がある。自然観察に長じた保全団体が開設時から継続して活動しており、2008年からはモニタリング1000里地調査に参加して、広島県の典型的な里山特有の植物相、動物相など膨大な生物調査結果が蓄積されている。サシバなど20種を超える希少種も確認され、鳥類の越冬地や繁殖地にもなっている。

土地利用の 変遷

当地には中世のたたら製鉄の遺構があり、周辺は薪炭林として活用された。その後はアカマツ二次林や植林地として、長く里山利用されてきた。1949年に完成した万代池は周辺の田畑の農業用水であり、林野火災の防火用水でもある。2005年からはゾーニング計画に基づいてNPOが整備しており、除間伐育林ゾーンはスギ・ヒノキの人工林、里山再生ゾーンはクリ・コナラ林とアカマツ二次林で、アカマツ林の林床にはコバノミツバツツジ-ウメモドキ群落が見られる。生物多様性ゾーンにビオトープ池がある。

サイト周辺の 環境

サイト周辺には同じくアカマツ二次林や雑木林が広がり、ため池から流れる水路沿いには、戦後の入植で開発された水田が広がっている。また、当地の位置する北広島町は2010年に生物多様性保全条例を制定し、町全域での保全の取り組みが定められている。

アピール ポイント

開設当初から19年間、里山コモンズとして市民に開かれ、ゾーニングごとの保全活用計画をもとに、企業の支援を受けつつ里山保全作業や活用事業を継続してきた。活動団体は当地を拠点に、長期自然体験キャンプや本格的な自然体験型環境教育、地域課題解決の人材養成など、主に教育の分野で特徴的な活用プログラムを展開してきた。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

本サイトのある今吉田地区は、西中国山地を背後にした標高約400mの平坦な水田と周囲のなだらかな低山の景観である。周辺地域にはため池が多く、申請地区内の万代池は約2ヘクタール、地域で最大のため池で1946年から3年かけて完成した。稲作や防火用水の利用の他、水鳥や魚類、カエル類、トンボ類など水生動物の生息場所となっており、生物の多様性が豊かな場所となっている。

【主な植生】

大部分はアカマツ二次林で、クリ-コナラ群集、コバノミツバツツジ-ウメモドキ群落が見られる。植林地はスギ、ヒノキ林で、用材としてのクリ林も育成している。森林学習ゾーンでは中低層の木本を伐採し見通しのよい林床とした部分もある。

【確認された主な動植物など】

里山種を中心に、動物では哺乳類14種、鳥類96種、蛾類866種、チョウ類62種、トンボ類35種、その他の昆虫約200種以上、は虫類11種、両生類9種、クモ類69種、植物では木本52種、草本363種、シダ類48種以上が確認されている。調査はエリア全域でハビタット別の記録は少ない。主な種は以下のとおりである。

植物：アカマツ(*Pinus densiflora*)、ホオノキ(*Magnolia obovata*)、

コバノミツバツツジ(*Rhododendron reticulatum*)、ササユリ(*Lilium japonicum*)

哺乳類：ホンドギツネ(*Vulpes vulpes japonica*、成獣)、

ニホンノウサギ(*Lepus brachyurus*、成獣・幼獣)

鳥類：コガモ(*Anas crecca*)、オオアカゲラ(*Dendrocopos leucotos*)、

キビタキ(*Ficedula narcissina*)

爬虫類：ヤマカガシ(*Rhabdophis tigrinus*)、シマヘビ(*Elaphe quadrivirgata*)、

シロマダラ(*Dinodon orientale*)

両生類：ヤマアカガエル(*Rana ornativentris*)、タゴガエル(*Rana tagoi*)

昆虫類：クロスジギンヤンマ(*Anax nigrofasciatus*)

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

当サイトのため池は周辺の水田の水源であり、林野火災の防火用水にも指定されている。スギ・ヒノキの人工林からは木材が産出され、森の整備作業で出た間伐材は、薪や整備資材として利用している。

ため池を囲む森は、心地よい自然体験の場として市街地住民にも親しまれ、自然体験型環境教育や、フリースクールやキャンプ、森のようちえん、企業研修の場として活用されている。

【主な植生】

大部分はアカマツ二次林で、クリ・コナラ群集、コバノミツバツツジ-ウメモドキ群落が見られる。植林地はスギ、ヒノキ林で、用材としてのクリ林も育成している。森林学習ゾーンでは中低層の木本を伐採し見通しのよい林床とした部分もある。

【確認された主な動植物など】

里山種を中心に、動物では哺乳類14種、鳥類96種、蛾類866種、チョウ類62種、トンボ類35種、その他の昆虫約200種以上、は虫類11種、両生類9種、クモ類69種、植物では木本52種、草本363種、シダ類48種以上が確認されている。調査はエリア全域でハビタット別の記録は少ない。主な種は以下のとおりである。

植物：アカマツ(*Pinus densiflora*)、ホオノキ(*Magnolia obovata*)、

コバノミツバツツジ(*Rhododendron reticulatum*)、ササユリ(*Lilium japonicum*)

哺乳類：ホンドギツネ(*Vulpes vulpes japonica*、成獣)、

ニホンノウサギ(*Lepus brachyurus*、成獣・幼獣)

鳥類：コガモ(*Anas crecca*)、オオアカゲラ(*Dendrocopos leucotos*)、

キビタキ(*Ficedula narcissina*)

爬虫類：ヤマカガシ(*Rhabdophis tigrinus*)、シマヘビ(*Elaphe quadrivirgata*)、

シロマダラ(*Dinodon orientale*)

両生類：ヤマアカガエル(*Rana ornativentris*)、タゴガエル(*Rana tagoi*)

昆虫類：クロスジギンヤンマ(*Anax nigrofasciatus*)



写真の説明：森の生き物探し散歩



写真の説明：ツリークライミング

生物多様性の価値


価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

申請地域の大部分はアカマツ二次林であり、コナラ、ホオノキ、コシアブラなど広葉樹を交える。このため林内に陽光が入射する環境で豊かな動植物相が維持されている。約2haの万代池の存在でより多様な生物の生息地となっており、水棲昆虫やカエル類からヘビ類、キツネ、テン、タカ類に至る食物連鎖網が形成されている。

【確認された希少種】

本サイト内では、全域のモニタリング調査で、環境省及び広島県レッドリストに掲載された希少種として、哺乳類3種、鳥類12種、爬虫類2種、両生類3種、昆虫類3種、その他無脊椎動物1種、種子植物3種が確認されている。



写真の説明：



写真の説明：

生物多様性の価値

価値(8) 越冬、休息、繁殖、採餌、移動(渡り)など、動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】

万代池は2haと近隣最大のため池でカモ類の越冬、サギ類やカワウの休息場となっている。隣接する水田と万代池の湿地はトンボ類やカエル類の繁殖のための必要な場である。周囲の二次林は里山再生や森林学習のために一定の手入れがあり、低木が繁茂することなく落ち葉の林床があり、地上採餌を行う鳥類のえさ場となっている。また木本類のさまざまな果実類も冬季の鳥類やテンの餌に利用されている。

【対象となる動物種とその動物種の生活史の内容】

鳥類の繁殖ではモズ (*Lanius bucephalus*、エサ運び・幼鳥)、ホオジロ (*Emberiza cioides*、巣・雛)、ウグイス (*Horornis diphone*、巣)、ヤマガラ (*Sittiparus varius*、巣箱の利用)、シジュウカラ (*Parus cinereus*、巣箱の利用)、カイツブリ (*Tachybaptus ruficollis*、浮巢・卵・雛)、カルガモ (*Anas zonorhyncha*、巣・卵) などが確認された。

また、繁殖期のさえずりがクロツグミ (*Turdus cardis*) やヒガラ (*Periparus ater*)、アオバト (*Treron sieboldii*) などで確認されており、繁殖分布の低域限界にあたっていると思われる。

カモ類の越冬としては、マガモ (*Anas platyrhynchos*)、カルガモ、コガモ (*Anas crecca*) を主体にオシドリ (*Aix galericulata*)、ヨシガモ (*Anas falcata*) など、最大約100羽が越冬する。サギ類の休息場としては、ダイサギ (*Ardea alba*) やアオサギ (*Ardea cinerea*) は採餌の他、約30羽がねぐらにしている。

カエル類2種は水田で繁殖した後、万代池に移動し、またニホンアカガエル (*Rana japonica*) やニホンアマガエル (*Dryophytes japonicus*) は林内へ移動して生活するなど、ため池と水田のセットが両生類の生活に重要な環境となっている。このためヘビ類・猛禽類・イタチなどの多様な捕食者が生息している。



写真の説明：浅瀬や松の木をねぐらとするダイサギ

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>〈活動目的〉 荒廃した里山の整備保全活動及び整備した里山を活用した環境教育、自然体験活動の場の提供を通して、生物多様性の価値について普及啓発するとともに、環境に配慮した暮らしが実践できる人づくりに寄与することを目的とする。</p> <p>〈活動内容〉 申請区域を、①里山再生ゾーン、②生物多様性ゾーン、③森林学習ゾーン、④除間伐育林ゾーン、⑤憩いの水辺に分けて、上述の価値(3)、(6)、(8)の保全に貢献できるよう、以下の保全・利用活動を行う。</p> <p>①里山再生ゾーン：松枯れナラ枯れの進行が著しく、枯損木の伐倒を進める。</p> <p>②生物多様性ゾーン：現在の状態を維持し、モニタリングで希少種を見守る。</p> <p>③森林学習ゾーン：生物多様性や生態系の学習体験で使えるように整備する。</p> <p>④除間伐育林ゾーン：間伐の遅れているエリアの作業を重点的に進め、作業体験の場として活用する。</p> <p>⑤憩いの水辺：ため池特有の生物相と景観を保全しつつ、カヌーなど水辺の体験活動で活用する。</p> <p>〈実施体制、計画の点検・見直し〉 NPO法人ひろしま自然学校が中心となり、サイト内の生物多様性の保全と利活用などの管理活動を行う。毎年度ごとに現状を踏まえて、次年度の活動計画を策定する。あわせて、5年ごとに次の5年間の活動計画の改定をする。</p>	<p>【モニタリング対象】 植物、チョウ類、鳥類、中・大型哺乳類を対象としたモニタリングを実施し、それに付随して確認されたその他の生物についても記録する。</p> <p>【モニタリング場所】 サイト内に設定したルート沿い及び、センサーカメラ設置場所</p> <p>【モニタリング手法】 中大型哺乳類はセンサーカメラにより定点観察 それ以外の種は定めたルート沿いにルートセンサス</p> <p>【モニタリングの実施時期及び頻度】 モニタリング1000の調査手法に準じて、対象生物群の適期に月2回から年3回の頻度で実施。</p> <p>【モニタリング実施体制】 NPO法人ひろしま自然学校が中心となり、同団体の里山保全ボランティアがモニタリングを行う。特にモニタリング1000里地調査に関しては、広島自然観察会と協働で実施する。同定に関しては専門性の高い有識者が確認する。また、大人や子どもが参加できる調査イベントも実施していく。</p>